

砂防

ふくしま

第22号

福島県砂防協会機関誌



平成21年度「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」コンクール 絵画・版画(中学生)の部
最優秀賞(国土交通大臣賞)

福島市立福島第一中学校 2年 ^{もりや}森谷 ^{ゆうこ}祐子さん

みんなで防ごう土砂災害
土砂災害防止月間
6/1→30
がけ崩れ防災週間 6/1▶7

雪崩防災週間
12月1日→7日

CONTENTS

福島県砂防協会長あいさつ	2
平成21年度「土砂災害防止に関する 絵画・ポスター・作文」コンクール受賞作品	2
全国治水砂防協会促進大会について	3
土砂災害警戒区域等の指定状況	3

福島県砂防協会会長あいさつ



福島県砂防協会会長

南会津町長 **湯田 芳博**

会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

目黒前会長（只見町長）にかわりまして、福島県砂防協会会長に就任した南会津町長の湯田芳博でございます。

昨年は山口県防府市において、特別養護老人ホームに土石流が直撃し多数の死傷者を生じさせた大規模な土砂災害が発生しました。改めて土砂災害の恐ろしさを認識したところであります。

被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、本協会の重要な事業活動として土砂災害防止に関する啓発活動を実施しておりますが、この一環として国土交通省と県が毎年6月に実施している「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」のコンクールに、県内の小・中学生から多くの作品が寄せられました。

厳正な審査の結果、福島市立福島第一中学校2年の森谷祐子さんが絵画版画の部において、最優秀賞を受賞されました。

応募された作品は、どれも土砂災害の恐ろしさや土砂災害から身を守るための備えについてよく理解され、表現された素晴らしい作品でした。受賞された皆様にご心からお祝いを申し上げますとともに、作品を応募していただいた多くの方々に感謝を申し上げます。

本協会といたしましては、応募作品に願いを込めた皆様のご意見をしっかりと受け止め協会活動を進めて参りますので、ご指導よろしくお願い申し上げます。

平成21年度「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」コンクールについて

国土交通省と福島県では、土石流・地すべり・がけ崩れなどの土砂災害からかけがえのない生命と財産を守るため、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害防止に関して地域の皆様のご理解とご協力をいただくため様々な行事を行っております。

この行事の一環として、明日を担う小・中学生を対象に「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」のコンクールが行われました。

本県においては、145点の応募作品の中から14作品が福島県砂防協会会長賞に選ばれ、そのうち8作品を中央審査会に推薦しました。

中央審査会における審査の結果、本県より5名が

最優秀賞（国土交通大臣賞）及び佳作（砂防部長賞）に受賞されました。

ここに、受賞された方々をご紹介します。

◎最優秀賞（国土交通大臣賞）

福島市立福島第一中学校2年 森谷祐子さん

◎佳作（国土交通省砂防部長賞）

会津坂下町立坂下小学校5年 井関耕大さん
石川町立石川中学校2年 滝川美樹さん
会津若松市立日新小学校2年 高林菜璃さん
いわき市立桶売中学校2年 西山貴博さん

作品応募及び受賞状況

区 分	福 島 県 内 応 募 数				全 国 応 募 作 品 数			
	協会会長賞	うち 最優秀賞	うち 優秀賞	うち 佳 作	うち受賞者数			
絵画・版画	小学生	11	2		1,019	最優秀賞=1	優秀賞=3	佳作=10
	中学生	12	2	1	380	最優秀賞=1	優秀賞=3	佳作=10
ポスター	小学生	22	2		1,396	最優秀賞=1	優秀賞=3	佳作=10
	中学生	53	3		1,407	最優秀賞=1	優秀賞=3	佳作=10
作 文	小学生	2	2		408	最優秀賞=1	優秀賞=3	佳作=10
	中学生	45	3		708	最優秀賞=1	優秀賞=3	佳作=10
計	小学生	35	6		2,823	最優秀賞=3	優秀賞=9	佳作=30
	中学生	110	8	1	2,495	最優秀賞=3	優秀賞=9	佳作=30
総 計		145	14	1	5,318	最優秀賞=6	優秀賞=18	佳作=60

※協会会長賞＝福島県砂防協会会長賞 最優秀賞＝国土交通大臣賞 優秀賞＝国土交通事務次官賞 佳作＝国土交通省砂防部長賞

最優秀賞に選ばれた森谷祐子さんへの賞状伝達式を、平成22年2月26日に福島市立福島第一中学校にて行い、宮澤文夫県砂防課長が賞状と記念品を手渡しました。

森谷さんは同校美術部に所属されており、山口県防府市で発生した土砂災害がテレビや新聞で報道されているのを見て、とても印象に残ったため今回出品されたとのことで、「驚きが一番でビックリしています」と語り、鈴木昭雄校長、長久保智子教諭とともに受賞を喜びました。



▲(左から):鈴木校長、森谷さん、長久保教諭、宮澤砂防課長

平成21年「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」 コンクール受賞作品(絵画・版画の部)



福島県砂防協会会長賞

いわき市立玉川中学校 2年

ながやま すみのり
永山 純礼さん



福島県砂防協会会長賞

郡山市立行徳小学校 6年

すずき むげん
鈴木 無限さん



福島県砂防協会会長賞

南会津町立南郷第二小学校 1年

いがらし こうた
五十嵐 晃太さん

平成21年「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」
コンクール受賞作品(ポスターの部)



佳作(砂防部長賞)
会津坂下町立坂下小学校 5年
いせき こうだい
井関 耕大さん



佳作(砂防部長賞)
石川町立石川中学校 2年
たきかわ みき
滝川 美樹さん



福島県砂防協会会長賞
いわき市立中央台南小学校 1年
はやしだ みなみ
林田 美南さん



福島県砂防協会会長賞
浅川町立浅川中学校 3年
ひるた あんな
蛭田 安菜さん



福島県砂防協会会長賞
石川町立石川中学校 3年
にへい あや
二瓶 亜也さん



平成21年「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」 コンクール受賞作品(作文の部)



佳作(砂防部長賞)

「さいがい」 会津若松市立日新小学校 2年 ^{たかばやし}高林 ^{しおり}栞璃さん

夏休みに入る前から、九しゅうの大雨のニュースがテレビでやっていて土しゃくずれで山の木がなくなって、おじいちゃんやおばあちゃんのろうじんホームがどろだらけになってホームの中は水が川のようになっていました。あつという間に「バン」とながれておじいちゃんとおばあちゃんがなくなってしまいました。つぎから大雨のニュースがあつて、ろうじんホームのニュースは、わからなくなっていました。

いえでは、おかあさんが夕食のじゅんびをするまで、ニュースをいっしょに見てお話をしています。大雨でかわの水がちゃ色になってはげしく川がながれていました。その時、おにいちゃんとわたしがふざけて、「およいでにげればいいのに、はしればいいのに。」と山がくずれていえも車もながれているニュースで話していたらおかあさんがとつぜんおこったこえで、わたしたちをおこって「テレビみたいなことがおきてもぜったいにたすけてあげないよ。」とおこりました。そして、その日のよるおかあさんとおにいちゃんとおふろに入っていたらきゅうにおけで、おふろをかきまぜて立ってられないくらいませ、かた手にシャワーでわたしたちの顔に水をかけながら「これにげられるか、これがどろ水だったらにげられるか。」とおこられました。りっぱな口がきけるならたすけてきなさい。と言われました。その時わたしたちは、だまってしまいました。わたしは、人をたすけられないのに口にしたことをはんせいしました。そして、いえやかぞくをなくしたひと、目をとじて目をあけた時、いえもなにもかもきえてなくなってしまう人のきもちを、自分だったらどうするか考えるようになりなさいと教えてもらいました。わたしは、大きくなったら、手つだいにいって、手つだってあげたいです。



佳作(砂防部長賞)

「釣りのためにも」 いわき市立桶売中学校 2年 ^{にしやま}西山 ^{たかひろ}貴博さん

溪流釣りが好きだ。休みにになると、父と一緒に近くの川へ出かける。三十四センチメートルのイwanaも釣ったことがある。だが、大きな魚が釣れるのは、雨が降り川の水が濁り、水量が増えた時だ。そんな時に釣りに行くのは、常に危険と隣り合わせだと自覚している。それでも、大きな魚が釣りたいと出かけていく。

よくニュースで、川釣りをしていたり遊んでいた人が、急に水量が増え、流されてしまうという事件を耳にする。いわゆる「鉄砲水」に飲み込まれるという事件だ。

雨が降り、川の水が少しずつ増えていくのは分かるが、急に水が増えるのは見たことがない。水量が少ししかない川も、時には水量が増え、鉄砲水が起こることもあるそうだ。

私の家の周りにも小さい川がたくさんある。普段、雨が降っても急に水量が増えることはないが、心配になってきた。

「鉄砲水」とは、何だろうか。そして、私の家の周りの川も「鉄砲水」が起こりえるのだろうか。

聞いて見ると、「鉄砲水」は、急な斜面をもつ山間部に、短時間で大量の雨が降ると、起こるそうだ。短い時間でたくさんの雨が降ると、雨水が地面に吸収されずに、谷へと流れていく。その水が川に集まって急に水量が増えてしまうのが、鉄砲水だそうだ。

その話を聞き、家の周りでも起こる災害だと分かった。

実は去年八月、私の通う学校の近くで土砂災害が起きた。今までに見たこともないほど、ひどい災害だった。いくつもの土手が崩れ、道が通れなくなったり、川の水が増え、橋が流されたりした箇所もあった。復旧にはかなり時間がかかり、補修工事が終わるまで、迂回して学校に通学していた友だちもいた。収穫前の稲にも被害がでた。

このような土砂災害が起きる理由が四つあるという。

一つ目は、日本の国土がほとんど山で、もろくて崩れやすい土や岩でできているからだ。特に、雨が降り地面にしみこんでいる時期に地震が来たりすると、大きな災害となってしまうそうだ。

二つ目は、雨がたくさん降るということだ。日本は、アメリカやアフリカなどの世界各国と比べて雨がたくさん降る。しかも、梅雨や台風などの時期には、更に雨量が増えるので、そういった時期には土砂災害になりやすくなってしまふ。

三つ目は、世界の国々に比べて、山から海までの距離が短いということがあげられる。川の距離が短いので、流れがとても急になる。それに加えて日本の山々は、急な斜面が多いため、川の流れに勢いがつきやすい。流れに勢いのついた川は、周囲の崖を削りながら流れ、土砂災害を引き起こすのだそうだ。

最後は、日本に活火山が一〇〇以上あるということだ。私たちの住む福島県にも、会津地方の磐梯山などの活火山が点在している。地震や噴火によって地形が変わり、土砂災害が起こりやすくなるそうだ。

私の住む桶売の地形は、阿武隈高地の中程に位置し、標高も五〇〇メートルほどの山間である。家や学校は、山の斜面を背負っている。道路は、川沿いにある。調べるうちに土砂災害が起こりやすいことが分かってきた。

実際に災害が起きるともうどうしようもないことが、去年の経験から分かった。

では、こういった災害から身を守るためには、どのようなことに気をつければよいのだろうか。

例えば、土石流が起こるときは、「川や沢の中でごろごろという音がしたり、火花が見えたりする」「川や沢の流れが急に濁り、木が流れてくる」「雨が降り続けているのに、川や沢の水が減る」「地鳴りがする」などの兆候があるそうだ。

特に「川や沢の水が減る」という兆候に驚いた。普通だったら雨が降り続けば、水量が増える。しかし、上流で天然のダムができてしま

うことのような現象が起こるそうだ。

このような兆候に敏感なら災害に巻き込まれなくてもすみそうである。

また、このような災害の被害を少なくするための施設もあるそうだ。私の家の近くにも、砂防ダムがある。それ以外にも「透過型砂防堰堤」や「溪流保全工」などの施設も設置されているという。

土石流や鉄砲水が発生すると私たちの生活に影響が出るだけではなく、魚たちにも悪い環境になってしまうだろう。

こういった災害は、実は身近な問題だということが分かった。

楽しく魚釣りをするためにも、身近な地域に隠れている災害を敏感に感じ取って、考えて生活していきたい。



福島県砂防協会賞

「土砂災害」 会津若松市立日新小学校 4年 ^{とうじょう}東条 ^{まさや}真也さん

「土砂災害があった」ぼくは、八月に兵庫県の佐用町に台風九号がきて、土砂災害にあっている人たちをテレビのニュースで見ました。次々に家に水が流れこんでいき、大人の身長をこすくらいまで水が流れこんできました。水がおさまると、家の中は、ぐちゃぐちゃにあらされていました。ほかに、庭で育てた花が全部流され、たくさんの家がたおれていたり、車がさかさまになって木に引っかかっている場面が次々と映し出されていました。

この土砂災害で亡くなった人や、ゆくえ不明の人は、まだ大ぜいいるそうです。

この土砂災害では、一千トンのゴミが集まったり、五千世帯が断水して、水が飲めなくなっています。

「この人たちはこれから、どうになってしまうのか。」とても心配になりました。

もしも、ぼくの住んでいるところで土砂災害があっても住めなくなったらどうするか、テレビを見ながら考えていました。

まず、ぼくの団地は、三階建てで、住んでいるところは二階なので、土砂災害にあってもだいじょうぶなのですが、一階に住んでいる人たちはだいじょうぶなのかといったことを考えました。ぼくも一階に住んでいて土砂災害にあったらどうするかということも考えました。

まず、ひなん場所はどこか。食りょうや水はどうするのか。お母さんといっしょに考えました。ひなん場は、日新小学校の他に、近くていいところはないかさがしたり食りょうや水は、ほかの県や市にもらうのかななどを話し合いました。

ぼくの家の中には、大きな川があるので、もしもこう水がおきてしまったらどうするのかということもいっしょに考え、たくさん話し合いました。

テレビをもう一回つけると、ボランティアの人たちがたくさん集まって、いっしょに町をきれいにしていました。こわれた家のはへんをひろっているところを見ると、とてもたいへんそうで、自分も手伝ってあげたいと思いました。

そのボランティアでは、ニュースによると、千八百人以上の人が集まったそうです。その中でも、神戸の高校生の野球部の人たちがきていっしょにボランティアで手伝いをして町をきれいにしているところが印象にのこりました。

「はんしんだいしんさいのときに助けてもらったから、自分たちができることをしたい。」と高校生のみなさんは言っていました。

こんなに大ぜいの人たちが来てくれたら佐用町の人たちはうれしいだろうと思いました。

また、高校生のみなさんはともしんせつだとおもいます。ぼくも、ボランティアをしてみたいと思いながらテレビを見ていました。高校生の人たちが、花だんの花を直して、ほかの人たちは、家のはへんやゴミなどをひろっていました。その一生けん命なとりくみ方はすごいと、ぼくは思いました。

ぼくは、この土砂災害のニュースを見て、佐用町の人たちみんなかわいそうだとずっと思っていました。だから、こんどちがう県や町に土砂災害にあってもまわっている人がいたら助けにいてあげたいです。また、自分の住んでいるこの会津では土砂災害がくることはないと思いますが家の近くに川があるので川の水がふえて、じこにあうのはおかしくないので、気をつけてすごしたいです。

土砂災害にあった人たちは、今どうしているのかこのごろ気になるようになってきました。佐用町の人たちは、今安心してすごしているのかとても心配しています。自分も気をつけて、安全にすごしたいと思いました。これからは、土砂災害にあいそうな天気のはきは、早めにひなんしてほしいと思いました。

ぼくは、これからは学校でボランティアを自分からすすんでやりたいと思いました。また、台風などの自然災害にあっている人を、テレビのニュースで見たら、その県や町を助けてあげたいと思います。直せつ行くのがむずかしいような遠いところで災害があったら、ぼくを助けるなどして、まわっている人々を助けてあげたいです。



福島県砂防協会賞

「土砂災害について」 須賀川市立第二中学校 3年 ^{えじり}江尻 ^{しんいち}真一さん

僕は「土砂災害」という言葉から浮かぶイメージは、恐いとか大きい被害をあたえるというイメージでした。でも僕は実際に土砂崩れを経験して土砂災害はそんなあいまいな考えではなかった。

僕の祖母の家には裏山がある。今から数年前、梅雨の時期に大型台風が上陸している時の事だった。その日は久しぶりにいとこが祖母宅にきていたので僕も祖母宅にむかった。祖母宅に着いた時、祖母や祖父が念のためと言って斜面にビニールシートなどを軽く張り予備対策をただけでした。それでも僕は不安になって祖母や祖父に大丈夫か聞くと、

「大丈夫だよ。今までこれで充分防げたよ。」と言っていたけれど僕は不安だった。僕はもしも土砂崩れが起きたときを想像したり、逃げる事なども考えたりしていた。次の日の朝僕はドタドタという足音で目を覚ました。僕は不思議に思って寝室から出たらザーという音が聞こえた。その時僕はただならぬ不安に襲われた。そして僕は窓越しに裏山の方を見たら山の斜面が大きく崩れて流される瞬間を見た。その時は祖父母が僕たちを連れて家から逃げた。僕は土砂崩れが起きた時の想像などをしていたのに、ただその状況がよく理解で

きず唾然としていただけだった。その一時間後には家の中に土砂が完全に入ってきて家の中がグチャグチャになってしまった。もし逃げおけていたら死んでいたかも知れないと怖い。ぼくは、全然土砂災害の事を理解していなかった。でも土砂災害は自然災害けれども災害の規模を少しでも小さくできる方法はないのであろうか。

僕が「災害の規模を減少させる方法」と言われてまず思うのは、土砂崩れなどが起こる前に土砂崩れなどが起きないように対策する事が大切だと思う。僕の祖母宅では山の斜面が緩くなっているのにもかかわらずビニールシートだけで防げるという甘い考えをもっていたので被害にあってしまった。やっぱり前からちゃんとした対策が必要だと思う。

今は僕の祖母宅でもきちんと対策をした。山の斜面を緩やかにけずられて、さくのような物をたてたりした。僕はこういったことでも災害の規模を少しでも減少できると思う。

地震などもそうだけれど、土砂崩れなどの自然災害は事前に予測する事は難しい。だからこそこういった災害が起こる前の対処が大事だと思うし、起こった時の冷静に対処法を考えるなどという事を日常から考える事が必要だと思う。

僕は、実際の土砂災害を経験して、本当の恐ろしさを知った。最近、土砂災害防止法という法律がつけられたらしい。土砂災害から国民の命を守るため、避難場所などを国が知らべたりして国民の命を守るための対策ができた。だからこの作文をきっかけに、土砂災害などは遠くの事に思えるようで、実はとっても身近にあるということをもっと知ってほしいと思う。一人一人の気持ちの持ち方や心構えなどで災害の被害はへると思う。これからはしっかり冷静な判断できるような心をもって生活していきたい。



福島県砂防協会会長賞

「土砂災害について思ったこと」 泉崎村立泉崎中学校3年 佐川 奈津美さん

私の家は台地が高いところにあり、大雨が降っても床下浸水や洪水がおこる危険性は、極めて低い。なので私は、生まれてから土砂災害にあったことはない。小さいころ「土砂災害にあったら、学校も休めるし、ならないかな。」と思ったときもあった。テレビで天気予報で台風の移動推定の画面を見て、「どうしてそこで曲がるんだよ。こっちこい。」などと思ったほどである。しかし、テレビでニュースを見たとき、その間違いな考えは私の頭の中から消えた。テレビの画面には、雨であふれた川がたくさん住宅を流し、土砂が車を覆うようにつぶしてしまったりと、とても学校を休める理由の一つに入るようなものではなかった。増水した川に流されたり、車内にいたら土砂がきてつぶされたりと、たくさんの人が亡くなっていた。私は、とても楽に考えていた自分を恥じた。台風がさっても、家の中が泥だらけだったり、あるべき場所に自分の家がなかったり、死亡とされたがその遺体が見つからなかったり、とても大変だった。でもテレビだけでは、土砂災害の大変さを全部伝えきれないところがあるかもしれない。泥だらけの家の中で、泥を外に出そうとしている人、倒れた木などを運ぶ作業をしている人、小さい子供からお年寄りまで作業をしていた。私は「自分ではなくて良かった。」と思ってしまったこともあった。でも、「その自分は何ができるのだろうか。」とも思った。よく作業をしている人を見てみると、現地の人ではない人もいた。その人はボランティアで手伝っていた。それは一人だけではなく、たくさんのボランティアの人がいた。中には県外からきたり、高校生だったり私は驚いた。ボランティアでたくさんの人が、たくさんの人々を救っている。私は現地に行って手伝うことはできないが、行った人に行けない人の分まで手伝ってほしいと思った。地震と同じく、災害というものはさけられないので少しでもそれに対する対策や方法などがあれば、被害が大きくならずすむと思った。土砂災害とはいつもくるものではないので、あまり危機感を持っていない。いざというとき何をしたいのかわからず、最後には大きなものを失っている。土砂災害は体験したときに、初めてその恐怖が分かるものであると思う。最初おこった九州地方での豪雨も、きっと現地の人たちはおこると分かっていたわけではないから、今大変なんだろうと思う。災害はいつくるか分かんないから本当に怖いと思う。地震のように学校の授業で勉強したり、訓練をしたりしないので、土砂災害はどのように恐いのかとか、どう対応しなくてはいけないのか知識的には甘いと思う。少しでもいいから土砂災害について学習する面を子供のうちからやっておいた方がいいと思う。

土砂災害の発生は世界においても日本は、多い方である。四季もあるし、地震も多いし毎年災害の被害は大きい。いつもはおだやかな川さえ、豪雨により増水し、命をうばう殺人鬼になるだろう。誰一人として「いつ」「どこで」「何時何分何秒」災害がおこると分かるとはかぎらない。災害は防ぐことはできないが、抑えることはできる。土砂災害に対してもっと考えるべきであると思う。対策を考えたり、被害を少なくするための作業をしたりした方がいいと思う。また、一人一人がボランティア誠心を持ち、自分には何ができるか考えたりする時間が必要だ。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」とあるが、全くその通りであると思う。家中の泥をとるのだって大変だし、壊れた家の復旧作工事だって一人でできない。一人一人の協力が必要である。私はテレビで見ることしかできないが、いけない人でも土砂災害について考える時間を持とうと思う。そして土砂災害で学んだことを次に活かしていけばいいと思う。私は、生きているうちに土砂災害があると思うがその時は、今度は私がボランティアの一人として助けたいと思う。そして土砂災害の恐さを忘れないようにしたいと思う。一人でも多く土砂災害について考え、ボランティアとして活動してくれる人が増えたらいいなと私は思った。

全国治水砂防促進大会及び要望活動について

平成21年11月17日(火)に、砂防会館別館シェーンバッハ・サボーにて全国治水砂防促進大会が開催されました。

本大会において、砂防関係事業促進についての提言が採択されました。

また、促進大会終了後において、福島県砂防協会会長及び役員により、本県選出国會議員に対して砂防関係事業促進に関する要望活動を実施しました。



土砂災害警戒区域等の指定状況(平成22年2月末現在)

福島県は、平成22年2月26日までに下表の36市町村において1,284箇所土砂災害警戒区域等を指定しました。今後も引き続き危険箇所の基礎調査及び土砂災害警戒区域等の指定を進めるとともに、指定区域における警戒避難体制の整備についても地元市町村と協力し、県民の安全安心を確保します。

指定箇所	指定区域数		自然現象の種類					
			土石流		地滑り		急傾斜地の崩壊	
	土砂災害警戒区域	うち土砂災害特別警戒区域	土砂災害警戒区域	うち土砂災害特別警戒区域	土砂災害警戒区域	うち土砂災害特別警戒区域	土砂災害警戒区域	うち土砂災害特別警戒区域
福島市	103	77	71	45	0	0	32	32
会津若松市	2	2	1	1	0	0	1	1
郡山市	75	64	39	28	0	0	36	36
いわき市	139	128	53	44	1	0	85	84
白河市	125	116	33	24	0	0	92	92
須賀川市	13	11	4	2	0	0	9	9
喜多方市	36	28	20	12	0	0	16	16
相馬市	28	20	14	7	0	0	14	13
二本松市	40	32	25	17	0	0	15	15
田村市	17	14	4	2	0	0	13	12
南相馬市	25	24	2	2	0	0	23	22
伊達市	53	44	45	36	0	0	8	8
川俣町	74	63	57	46	0	0	17	17
天栄村	46	39	22	16	1	0	23	23
下郷村	65	42	45	25	3	0	17	17
只見町	54	21	44	16	5	0	5	5
南会津町	12	7	10	5	0	0	2	2
西会津町	78	56	52	30	0	0	26	26
猪苗代町	1	1	1	1	0	0	0	0
会津坂下町	1	1	1	1	0	0	0	0
柳津町	55	34	13	5	12	0	30	29
三島町	2	2	1	1	0	0	1	1
金山町	44	30	28	15	0	0	16	15
昭和村	2	2	1	1	0	0	1	1
会津美里	3	0	3	0	0	0	0	0
西郷村	16	10	10	5	0	0	6	5
泉崎村	5	4	1	1	0	0	4	3
中島村	1	1	0	0	0	0	1	1
矢吹町	8	8	0	0	0	0	8	8
棚倉町	58	33	41	23	6	0	11	10
塙町	15	8	15	8	0	0	0	0
三春町	34	32	4	2	0	0	30	30
広野町	12	11	0	0	0	0	12	11
富岡町	17	16	3	3	0	0	14	13
川内村	24	17	14	7	0	0	10	10
飯舘村	1	1	1	1	0	0	0	0
合計	1,284	999	678	432	28	0	578	567



「砂防ふくしま第22号」をお届けします。

「土砂災害防止に関する絵画ポスター作文」のコンクールで受賞された皆様、おめでとうございます。

ようやく日差しも暖かくなり始めたところですが、この時期になると雪崩の危険が高まってきます。県では、市町村と協力し雪崩危険箇所の点検を実施していますが、住民の方々には、斜面の雪のしわや亀裂、降雨状況などに注意を払い、危険を感じた時は早めに避難するなど、万一の被害に備えて欲しいところです。

これからも充実した「砂防ふくしま」の発行に努めて参りますので、皆様のご意見ご要望をお寄せ下さい。